

※一般質問の内容は議員自身が11月定例会議事録に基づき記述しています。



QRコードを読み取り、令和元年11月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



もちづき のりお
望月 則男 議員
(富岳会)

共立蒲原総合病院の今後について

問 地域医療構想の「具体的対応方針の再検証」を要請する対象医療機関に蒲原病院が対象として取り上げられたが、対象に取り上げられた理由、また今後の富士宮市としての考えを伺う。

部長 類似した実績があることかつ近接している医療機関がある病院、と判断されたため。

市長 市としては廃止するわけにはいかないという思い。管理者でもある富士市長に存続をしてくれるようにしっかりと要望していく。

高齢者の安全運転支援について

問 さまざまな補助の仕方があると思うがその効果について考えを伺う。

部長 国は国産の新型乗用車を対象に、自動ブレーキ搭載を義務付けることや後付けの急発進抑制装置を購入する費用助成を検討するとの報道も



うえまつ けんいち
植松 健一 議員
(芙蓉)

災害の「我がこと化」について

問 市民が災害を我がことと考え行動するための注意喚起・啓発の必要性を感じるがどうか。

部長 災害による被害をできるだけ少なくするためには自助、共助が大切である。地域の防災の協議会や勉強会の中で事例等をあげながら勉強してもらおうようにしていきたい。

災害時の倒木の被害について

問 倒木による送電被害についての対策はできているのか。

部長 昨年度相次いだ台風被害の教訓を活かし、東京電力ならびに中部電力の担当者と打ち合わせを行い、停電対応について確認をしているところである。1000件を超えるような広域な停電の場合は、復旧に関する情報を同報無線で市民にお知らせすることも必要だと考えている。

あったので、国の検討結果を待ちたいと考えている。

文化財の保護体制について

問 文化財はどのように管理を行っているのか。また、町（旧芝川町）指定の文化財のいくつかが合併後「市指定」とならなかった経緯、判断基準を伺う。

部長 保護管理は、文化財保護法の規定により所有者、保持者の責任であり、管理にあたっては、国・県・市など指定機関の指示に従うこととされている。また文化財は、合併時に一旦指定を解除し、富士宮市の同様の事例と比較検討し、合併後10年間で8件を富士宮市文化財として再度指定した。

問 未指定ではあるが地域にとっては大切な文化財は宝だと思うので守っていくという姿勢について伺う。

市長 後世に伝承していく必要があると思っているので庁内で検討し、大事にしていくような体制を整えていきたいと思っている。

身体の不自由な方についての災害避難所のあり方について

問 身体の不自由な方にとっては一時避難であっても大変なことである。避難所のバリアフリー化の必要性を強く感じるがいかがか。

部長 災害対策基本法の改正により避難所における良好な生活環境についての指針が示されている。指定避難所と連絡を密にしながら避難生活に支障がないように改善していかなければならないと考えている。

問 避難所に担架、車椅子の常備が必要であると考えているがいかがか。

部長 担架、車椅子の必要性はあると考える。今後指定避難所や防災倉庫等に配備することを検討する。

問 避難所のトイレは洋式であることが必要であると考えているがいかがか。

部長 洋式トイレが設置されていない一部の施設については、和式を洋式にする仮設トイレの設置を検討する。